



第 2 回 SGH 企画講演会

外務省（第一国際情報官室上席専門官）の後藤孝先生の講演を 1・2 年生が聴講しました。

テーマ：「未来の世界を考えよう」

日時：平成 27 年 9 月 15 日（火） 第 6 限～第 7 限

対象：1・2 年生全員（553 名）

会場：関高校体育館

最初のご挨拶はドイツ語でした。欧州では、考え方の違う人と話すには、最初に言葉を定義してかかるようです。高校生は「未来を創る人」という定義で、この言葉に感銘を受けた人が多くいました。

世界をどう見るかというお話では、世界が約 550 名（1・2 年生全体）だったとしたら、という想定で分かりやすくご説明してくださいました。生徒参加型のクイズで、普段はなかなかイメージできない世界各国の人口や生産力、防衛力を、実感を伴って理解することができました。クラスの代表が解答し、次々に色々な国名が出されて拍手や笑いが起こり、楽しい時間でした。

未来は、問題を予測して対処の仕組みを作り上げる「君たち」の知恵にかかっているという重い講演内容でした。その後の座談会では海外のエピソードやジョークなど軽い話題も紹介されました。



2 年生がクイズの司会をしました。



解答者の答えに会場が沸きました。



座談会も盛り上がりしました。

【生徒の感想】

■今回の講演を聴いて、視野が大きく広がったように感じます。特に安保問題や外交問題に対して、私は今まで日本人の立場からの視点しか持っていませんでした。今後は後藤先生がおっしゃったように、勢力としての視点や世界からの視点を持っていきたいと思えます。

■今回の講演で、自分が世界に対していかに無知であるかを思い知らされました。また、世界に出た時に自分の故郷について熟知していなかったら恥ずかしいと思いました。私は今年の 10 月にイギリス研修に行きます。そこで自分の故郷の魅力を語れるように学習していきたいと思えます。そして世界を学べる努力をしたいと思えます。

■ドイツでは早くから自立すると聞き、私には社会に出て自立するという自覚がまだまだ足りないと思えます。

■「問題を解決する」のではなく、「動きを予測して予防・対処する」という考え方が新鮮で、印象に残りました。また、自分の好きなことをもう一歩進めたら全然違う世界が見えるということを知り、興味のある分野の知識を増やして、自分や故郷、世界のために役に立つ人間になりたいと思えます。